

◎受験票の確認手順

- (i) The Admissions Office にログイン
- (ii) 「出願一覧」をクリック
- (iii) 「提出済」タブをクリック
- (iv) 募集名「総合研究大学院大学 / 先端学術院先端学術専攻 / 統合進化科学コース / 一般入試: ●●年●月入学及び●●年●月入学(入学区分参照)」を選択
- (v) 「受験票表示」をクリック

◎試験日程通知の確認手順

- (i) The Admissions Office にログイン
- (ii) 「メッセージ」を選択
- (iii) 募集名「総合研究大学院大学 / 先端学術院先端学術専攻 / 統合進化科学コース / 一般入試: ●●年●月入学及び●●年●月入学(入学区分参照)」を選択

(注1) 指定された学力検査の期日及び時間に、余裕を持って集合してください。

(注2) 試験日程通知が学力検査期間の3日前を過ぎても到着しない場合は、学務課学生係(gakusei@ml.soken.ac.jp)まで問い合わせてください。

試験会場:

教育コース	試験会場
統合進化科学	葉山キャンパス 〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村) (詳しくは https://www.soken.ac.jp/access/)

6. 合格者発表

入試区分	入学区分	発表時期
第1回	2023年10月入学及び2024年4月入学	2023年8月上旬
第2回	2024年4月入学及び2024年10月入学	2024年2月下旬

※詳細は追って出願者に通知します。

選考状況は、The Admissions Office において、以下の手順でご確認いただけます。

- (i) The Admissions Office にログイン
- (ii) 「出願一覧」をクリック
- (iii) 「提出済」タブをクリック
- (iv) 募集名「総合研究大学院大学 / 先端学術院先端学術専攻 / 統合進化科学コース / 一般入試: ●●年●月入学及び●●年●月入学(入学区分参照)」を選択
- (v) 「選考状況を確認する」をクリック

電話による照会には、一切応じません。なお、合格者に対しては合格通知書を発送します。

7. 入学手続き

(1) 入学手続き期間は、2023年10月入学者は2023年9月下旬、2024年4月入学者は2024年3月上～中旬、2024年10月入学者は2024年9月下旬を予定していますので、合格者は所定の期間内に入学手続きを完了してください。なお、詳細は、合格者に対して別途通知します。

(2) 入学に要する経費は次のとおりです。ただし、国費外国人留学生は入学金及び授業料は不要です。

入学金	282,000 円
授業料(年額 535,800 円のうち半期分)	267,900 円
学生教育研究災害傷害保険料(3年分) (通学特約・賠償特約付)	3,620 円

注3 入学時及び在学中に、入学金及び授業料の改定が行われた場合は、改定時から新たな金額が適用されます。

注4 納付済みの入学金は、いかなる理由があっても返還しません。ただし、学生教育研究災害傷害保険料については、2023年10月入学者は2023年9月30日まで、2024年4月入学者は2024年3月31日まで、2024年10月入学者は2024年9月30日までに入学を辞退した場合、返還します。

(3) 有職者(非常勤、アルバイトを除く。)については、任命権者が発行する書類(在職在学許可書、研修命令書、休職証明書等のいずれか)を提出してください。本学入学の前月までに退職する者は、退職証明書を提出してください。

- (4)出願時に他の大学・大学院に在籍している者(本学入学の前月までに卒業・修了する者は除く)は、退学証明書を提出してください。
- (5)外国籍の方は、特別な事情のない限り、「留学」の在留資格を取得して下さい。「留学」の在留資格の取得方法は本学ウェブサイトにて案内しています。

8. 長期履修学生制度について

長期履修学生制度は、職業を有している等の事情により、標準の修業年限(博士後期課程:3年)を超えて在学しなければ課程を修了することが出来ない者が、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出た場合、その計画的な履修を認める制度です。

この制度の詳細に関しては、学務課教務係[E-mail:kyomu@ml.soken.ac.jp 又は電話 046-858-1523・1524]にお問合せください。

9. 注意事項

- (1)出願及び受験の際は、「受験される皆さんへ」をよく読んでおいてください。
- (2)出願書類受理後の提出書類の返却及び内容変更は認められません。
- (3)出願書類等について、虚偽の申請、不正等の事実が判明した場合は、入学許可を取り消すことがあります。
- (4)出願時に他の大学院に在学中で転入学を希望する場合は、願書受付期間の最終日までに学務課学生係までお知らせください。
- (5)心身に障害のある出願者で受験時および入学後の履修に際し、特別な措置を必要とされる場合には、出願書類受付期間の3か月前までにその旨お知らせください。
- (6)受験辞退される際には、学務課学生係[E-mail:gakusei@ml.soken.ac.jp 又は Fax:046-858-1632]までお知らせください。
- (7)出願書類提出後に、住所等の変更がある場合には、学務課学生係[E-mail:gakusei@ml.soken.ac.jp 又は Fax:046-858-1632]までお知らせください。
- (8)本学では、原則として二重学籍を認めていません。
- (9)新型コロナウイルス感染症等の影響により、入学者選抜の実施方法を変更する場合は、本学ウェブサイトで公表しますので、必ず確認してください。

10. 安全保障輸出管理について

本学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「総合研究大学院大学安全保障輸出管理規則」等を定め、技術の提供や研究者・学生の受入れに際し、審査を実施しています。このことから、規制事項に該当するおそれのある場合は、希望する教育・研究内容の変更を求められることがあります。なお、入試の可否には関係ありません。

安全保障貿易管理の詳細については、経済産業省のウェブサイト(<https://www.meti.go.jp/policy/anpo/gaiyou.html>)を参照してください。また、審査手続きの詳細は各コースの担当事務までお問い合わせください。

11. 個人情報の取り扱いについて

- (1)出願時に提出していただいた氏名、住所、その他の個人情報については、「入学者選抜(出願処理、選抜試験実施)」、「合格者発表」及び「入学手続き」等の入試業務を行うために利用します。
なお、入学者については、「教務関係(学籍管理、就学指導)」、「学生支援関係(健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等)」及び「授業料徴収に関する業務」を行うことにも使用します。
- (2)入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計・分析及び入学者選抜方法の調査・研究のために利用します。

統合進化科学コース(博士後期課程)を受験される皆さんへ

併願について、出願期間・課程・入学年月が同一の場合に、第2志望までの併願を可とします。本コースは、天文科学コース、核融合科学コース、分子科学コース、物質構造科学コース、総合地球環境学コース、基礎生物学コース、生理科学コース、遺伝学コースとの併願を認めます。ただし、選抜は、コースごとに行われますので、併願する際には各試験日程・試験会場について留意してください。

1. 選抜方法

書類選考、英語能力及び面接により選抜します。

1) 書類選考:

本研究科が提出を求めた資料について行います。

2) 英語能力:

面接の際に、簡単な英語の問題に答えていただきます。

(※ただし、面接を英語で受験する者を除く。)

3) 面接:

面接試験で使用する言語は、当日、日本語又は英語のどちらかを選んでください。

これまでの研究内容、今後の研究への抱負、研究計画及び英語の能力(日本語で受験する場合)について面接を行います。

① 修士課程またはこれまで行ってきた研究について10分間で説明してください。

② 続いて、今後の研究抱負について10分間で説明してください。これには、研究目的、意義、方法を含めてください。

③ その後、お話し頂いたことをふまえて、質疑応答を行います。

④ 質疑応答には、研究に必要な基礎知識と日本語で受験する場合は英語の問題を含みます。

※上記①・②の参考資料として、それぞれA4・1枚のみ資料(図・表の使用可、両面印刷不可)を配布することが可能ですが、説明のための原稿等手持ち資料は持込不可です。必要に応じてホワイトボードの使用は認めます(それ以外の機器の使用は不可)。

配布資料は、当日25部持参してください。

2. 採点・評価基準及び合否判定基準

採点・評価基準: 出願書類及び面接により出願者の学問に対する熱意や意欲、基礎学力、表現力、論理性、研究者としての適性等の点を評価し採点します。

合否判定基準: 面接の結果と出願書類による評価、3年間で研究を遂行する能力があるかどうか等を総合的に検討し、合否を決定します。

3. 上記に関する問い合わせ先

〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

総合研究大学院大学 総務課 統合進化科学研究センター事務係

電話 046-858-1595, 1577

FAX 046-858-1541

ホームページアドレス <https://ies.soken.ac.jp>

統合進化科学コース 担当教員の研究内容

統合進化科学コースの教員のリストです。より詳しい研究内容及び最新の教員情報についてはホームページ (<https://rcies.soken.ac.jp/index.html>) を参照してください。

※標準修業年限(5年一貫制博士課程:入学時から5年間、博士後期課程:入学時から3年間)以内に定年退職を予定している教員を主任指導教員とすることはできません。ただし、副指導教員として指導を受けることはできます。

E-mail について:(at)は@に置き換えてください。

本郷 一美 ・ 准教授 (046-858-1599, hongou_hitomi(at)soken.ac.jp)

<先史人類学、環境考古学>

人類の歴史におけるヒトと環境との相互関係の変遷を研究しています。考古遺跡から出土する動・植物遺存体資料(骨、種子、花粉など)を分析し、ヒトの活動が他の生物や周辺環境に与えた影響、自然環境の変化がヒトの生業や社会にもたらした影響について探っています。動植物の家畜化・栽培化は、文明社会の発達を可能にする一方、後の地球環境悪化を引き起こす遠因となりました。家畜化・栽培化の初期過程の解明と過去・現在・未来の人類と環境の関係の理解を目指し、分子遺伝学、環境科学、文化人類学などの分野の専門家と協力して研究を進めています。

現在、西アジア(トルコ、シリア、ヨルダン)をフィールドに、偶蹄類の家畜化とムギ、マメ類の栽培化に関する研究を行っているほか、ユーラシア全域および東南アジア島嶼部の資料を用いてイノシシの家畜化過程を探っています。

※2026年3月末 定年退職予定

薦谷 匠 ・ 助教 (046-858-1561, tsutaya_takumi(at)soken.ac.jp)

<自然人類学、霊長類学、生物考古学>

もし、自分が縄文時代の狩猟採集民や、熱帯雨林に暮らすチンパンジーとして生まれていたら、どのように生まれ、成長し、子供を産んだりして、亡くなっていったのでしょうか？ 私は、そうしたいろいろな「わたしたち」(ホモ・サピエンスや進化的に近い種)の生きざまやライフヒストリーを復元し、文化や自然環境が個体に与える影響を調べ、進化適応や社会情勢にどう影響していくのかを明らかにすることを目指しています。具体的には、食性や授乳・離乳歴や生息環境を復元できる安定同位体分析や、生理状態や由来する生物種・体組織を推定できるプロテオミクス分析を生物試料に応用し、過去の人類や、現生の霊長類の生きざまを主に調べています。さまざまな分野を横断する文理融合の研究で、アプローチはフィールドワークからラボワークまで多岐にわたります。ヒト、化石人類、霊長類などを研究対象として、さまざまな側面から「人類とは何か？」と一緒に明らかにしていきたいと思いませんか？

杳掛 展之 ・ 教授 (046-858-1562, kutsu(at)soken.ac.jp)

<行動生態学、動物行動学、霊長類学>

動物を観察していると「動物はどのように暮らしているのか？」「なぜ、動物はある行動を行うのか？」「動物は何を考えているのか？」「なぜこれほど多様な動物がいるのか？」などの多くの疑問が生じます。私は、動物の行動・生態・表現型・認知を適応的な観点から分析することによって、動物の「生き様」を進化生物学的に理解することを目指しています。現在までのおもな研究テーマは、哺乳類(霊長目、食肉目、齧歯目)における社会行動ですが、最近、他の脊椎動物の研究や、社会行動以外のテーマにも挑戦し始めています。大学院生の研究テーマ・研究対象は基本的に自由で、自主的な研究提案を尊重したいと思っています(ただし、放任という意味ではありません)。方法論としては、フィールドワークによるデータ収集、飼育動物を対象にした行動実験・社会内分泌学的研究、系統情報を用いた行動生態学的データのメタアナリシス、一般性の高い概念的理論の構築なども行っています。研究活動においては、ナチュラルヒストリーや博物学的な視点を重視するとともに、比較認知科学、保全生物学などの隣接分野の視点を融合したマクロレベルでの包括的理解を目指しています。動物が好きで、積極的に研究を行いたい学生と一緒に研究することを楽しみにしています。

渡辺 佑基 ・ 教授 (046-858-1504, watanabe_yuuki (at) soken.ac.jp)

<生態学、海洋生物学>

動物の体に計測機器を取り付ける「バイオロギング」の手法を使って、海洋動物(魚類、海鳥類、海生哺乳類)の生態を調べています。野外調査で集めたデータを、文献に記載されている他の種のデータと比較することで、当該種の行動パターンや生理様式の進化を促した生態的意義(究極要因)を探るのが基本的なアプローチです。かつてはアザラシやペンギンの

研究に力を入れていましたが、現在はサメ類を始めとする大型魚類の研究が多くなっています。国内では高知や沖縄、国外では台湾やカナダなどで野外調査を行っています。それにくわえ、葉山キャンパスのある三浦半島でも野外調査ができないか、可能性を探っているところです。野外調査とデスクワークのバランスのよい、言い換えれば頭と体が両方動く研究者になりたいと願っています。私の研究室で研究を進める学生もそれを意識して欲しいと思います。

寺井 洋平 ・ 准教授 (046-858-1572, terai_yohei(at)soken.ac.jp)

<適応と種分化の機構、分子進化生態学>

地球上では数多くの生物の種が様々な環境に適応し、お互いに関わりながら生物の多様性を作り出しています。この生物の多様性はどのようにして創り出され維持されてきたのでしょうか？私はその機構を明らかにしようと研究を進めています。具体的には生物が環境に適応する機構をDNAやRNAの解析、集団遺伝学解析、タンパク質の機能と環境との相互作用までを研究することにより明らかにします。さらにそのような適応進化によって生じる交配をしない集団、つまり新しい種が分化する機構を明らかにします。また、非常に近縁な種間のゲノムの情報から種特異的な適応や種分化に関わってきた遺伝領域を明らかにする研究も行っています。適応と種分化の研究に実際扱っている生物種は、刺胞動物、地衣類、魚類、爬虫類、哺乳類と幅広く、研究も実験室内の分子生物学実験、魚類の飼育、生態情報を集めるためのフィールドワークなど幅広く行っています。

木下 充代 ・ 准教授 (046-858-1589, kinoshita_michiyo(at)soken.ac.jp)

<神経行動学、脳科学>

ヒトは、普段何気なく周りにあるたくさんの物を見えています。見ていると感じる「知覚」は、目から入った光情報が脳において再構築された主観的な経験です。この主観的経験は、生き物によって随分違います。私はこれまで、ヒト以外の動物が見ている世界と、それを生み出す脳のしくみに興味を持ち、チョウの視覚世界を中心に調べてきました。チョウはヒトと同様明るさや色の他に紫外線や偏光といったヒトには見えない光情報も見ることができているのに、その脳のおおきさはたった1mm³程度です。他の動物の視覚世界は、たくみに調整した視覚刺激を学習・弁別させる行動実験によって知ることができま。一方、知覚が生まれる高次脳領域を調べるのには、様々な神経科学的手法を用います。他の動物の知覚世界を知ること、我々ヒトが多様な動物種の中にあつて、ヒトがどのような生き物かを考える一助になるでしょう。

渡邊 崇之 ・ 助教 (046-858-1561, watanabe_takayuki(at)soken.ac.jp)

<神経行動学、神経進化発生学>

昆虫を含む多くの動物は、成体へと至る過程で「変態」という発生学的プロセスを経て、ボディープランをダイナミックに変化させます。変態を介した新たなボディープランの獲得には、変態後の体を制御する神経系の再編成が必要となります。私は原始的な不完全変態昆虫を材料に、変態に付随して起こるであろう神経回路の構造的・機能的再編成の分子機構や機能的意義を解明することを目的に研究を進めています。主な実験材料は遺伝学的操作が容易な数少ない不完全変態昆虫であるコオロギです。現在は、成虫となったコオロギが示す儀式的な闘争行動や配偶行動などの成虫特異的・性特異的な社会行動に着目し、これらを司ると予想される生体アミン系神経回路や性的二型神経回路に関する研究を進めています。

入江 直樹 ・ 教授 (046-858-1563, irie_naoki(at)soken.ac.jp)

<進化発生生物学、分子発生学>

我々人類の末裔が多数の手と複数の顔を持った阿修羅像のような姿をした生物種に進化する可能性はどのくらいあるのでしょうか？ヒトの体は受精卵から体ができる過程(発生過程)で形が決まっていますが、この発生過程のどこをどう変えていけば、最終的に劇的な進化につながるのでしょうか？突飛な疑問に聞こえますよね。そうなんです、実際、現代生物学ではこうした表現型の進化可能性の問題にはほとんど答えることができてません。入江研究室では、こうした進化可能性や進化予測といった問題に対し、主に動物を対象に取り組んでいます。興味を持った問題を解くためなら研究手法にはとらわれません。分子生物学的な実験、発生学実験、ゲノム解読、遺伝子発現データや単一細胞レベルでのマルチオミクス解析、機械学習、共同研究を通じた理論研究などなど。一緒にどんな研究戦略で進められるかを考えながら、研究を遂行します。また、研究テーマは大学院生が自ら提案した計画をベースに発展させながら進めることもできます。実際、私もそうしている。現在の研究テーマにつながる研究をスタートさせました。大学院生、ポスドクには独立した科学者として成長してもらい、次の時代を担ってもらうことを重視しています。一度きりの人生、人類の叡智を広げることに挑戦してみませんか？

颯田 葉子 ・ 教授 (046-858-1574, satta(at)soken.ac.jp)

<進化生理学、ゲノム遺伝学>

科学・技術の発達により空前の繁栄を謳歌した人間は現在様々な問題に直面しています。このような問題の根本原因のひとつには「人間」が自分自身の生物としての存在を十分認識していないことに起因しています。生物としての存在を認識

するためには、「人間」が自然界のなかでどのように進化してきたかを知ることが肝要です。一方私たちのゲノムには、その時その時の環境の変化に適応した結果が記されてきました。進化の過程で刻まれた特異的な環境適応の様子をゲノムレベルで明らかにし、「生物としての人間」とは何か明らかにすることを目指しています。現在取り組んでいる課題は、環境適応や環境応答関連遺伝子(具体的には疾病と関連する遺伝子や食と関連する代謝関連遺伝子・感覚受容体遺伝子)の進化を通して文化を含む環境がヒトゲノム多様性・ヒト進化に及ぼした影響(文化駆動的ゲノム進化)を探る研究です。また、ヒト特異的偽遺伝子(機能を失った遺伝子)のヒト進化への影響を探る研究、などです。

※2027年3月末 定年退職予定

大田 竜也・准教授 (046-858-1575, ota(at)soken.ac.jp)

<分子進化学>

様々な生物のゲノム情報や遺伝子発現情報が蓄積してきた現在、一つ一つの遺伝子を解析しその進化を明らかにすることのみならず、複数の遺伝子の発現によって構築されるシステムとして生物の進化を研究することが重要となってきました。「どのように個々の遺伝子における突然変異が表現型の変化につながり自然選択や人為選択の対象となってきたのか?」「様々な遺伝子での突然変異を通じていかに複雑なシステムが構築されてきたのか?」このような問題を解明することをめざし集団遺伝学や分子進化学に基づいた研究を行っています。近年は、免疫グロブリン等の多様な抗原認識能を持ち合わせる脊椎動物の「免疫システムの進化」、ゲノム解析に基づくアズキなどの栽培植物の起源や進化等を題材にしています。

五條堀 淳・講師 (046-858-1606, gojobori_jun(at)soken.ac.jp)

<自然人類学、分子進化学、集団遺伝学>

ヒトという種がどのように成り立ったのか?という疑問に対して、2つのアプローチを考えています。そのアプローチとは、「ヒトの種特異的形質の進化を理解する事」と、「アフリカに出現したヒトの世界への拡散の過程を理解する事」の2つです。これらの進化の過程を主に分子進化学的手法と集団遺伝学的手法を用いてCDNAレベルで解析します。現在は遺伝子のモチーフの1つである単一アミノ酸リピートに着目して解析を行っています。また、日本国内や国外で様々な現代病を含む遺伝病の原因遺伝子のマーカーを探索するプロジェクトが進行中ですが、そこから生まれる大量のヒト遺伝的多型のデータを活用する事で、医学的データの人類進化学への還元を目指します。さらには人類進化に限らず、脊椎動物の進化や無脊椎動物の進化まで、視点を広げての解析も行っています。

田辺 秀之・准教授 (046-858-1573, tanabe_hideyuki(at)soken.ac.jp)

<分子細胞遺伝学、染色体ゲノム進化学>

地球の歴史は地層に、生物の歴史は染色体に刻まれている、と言われますが、生物進化の歴史性を念頭において、「染色体」の構造と機能の解明を目指しています。すなわち、ゲノム進化の過程で、染色体がどのような再配列、核型進化を経て、細胞核内にどのように秩序化されてきたのかを DNA からクロマチン、染色体レベルにわたって「染色体テリトリー」という観点から探っています。ヒトを含む霊長類を中心とした哺乳類、鳥類などの脊椎動物由来の培養細胞だけでなく、無脊椎動物由来の初期胚等を観察対象とし、マルチカラー-FISH (Fluorescence *in situ* Hybridization) 法、2D-/3D-FISH 法、生細胞蛍光観察、マイクロダイセクション(染色体顕微切断)による新規プローブ作成などを駆使して、分子生物学、分子細胞遺伝学的手法による、ゲノム再編成、染色体テリトリー・遺伝子領域の核内空間配置解析等に取り組んでいます。ライブセルを用いた超解像での 4D-Nucleome 解析の確立を通じて、染色体構築基盤の総合的な解明を目指しています。

佐々木 顕・教授 (046-858-1537, sasaki_akira(at)soken.ac.jp)

<進化動態学、理論集団生物学>

エイズウイルスや睡眠病の病原体トリパノソーマは、宿主に感染したのちに表面抗原を次々と「脱ぎ変える」という巧妙な戦略によって、免疫系の攻撃から逃れます。このような病原体の流行と進化を予測するために、感染固体のなかでのウイルスの表面抗原の進化と免疫応答の数値モデル化が必要になります。数値モデルのシミュレーションにおいて、宿主体内でウイルスの新しい抗原型がどんどん枝分かれして出現する様子(系統樹)を表すモデルがありますが、このようなモデルを使って、免疫不全が起こるための多様性閾値、毒性の進化、進化速度、最適突然変異率、ワクチンや薬剤の効果などを評価したり、流行予測を行うなどの研究をしています。このほか、宿主体内での病原体の増殖戦略、性の数の進化、性と組み換えの進化、環境変動下の両賭戦略と遺伝的多様性、表現型可塑性の進化、病原体と宿主の軍拡共進化、適応度地形と突然変異率進化、有限集団における協力行動の進化、空間ネットワークと病原体の毒性、デング熱ウイルス抗原型共存、ミューラー擬態の空間モザイク分布、共進化サイクルの地理的非同調、同所的種分化とニッチ分割、制限酵素認識配列の進化などなどのテーマを数値モデルをもとに研究しています。

※2025年3月末 定年退職予定

大槻 久 ・ 准教授 (046-858-1638, ohtsuki_hisashi(at)soken.ac.jp)

<理論生物学, 進化ゲーム理論>

飢餓状態に陥ったキイロタマホコリカビでは、一部の個体が自己犠牲的に長い柄となり仲間の分散を助けます。アリやハチなどの社会性昆虫の多くでは、女王が繁殖を担当しワーカーは労働に徹します。ヒトでは互恵性が社会の基盤を成しています。このように協力は生物界で普遍的に見られますが、自らはコストを支払わずに協力の恩恵のみを享受する「裏切り者」の存在のため、協力の進化的起源は自明ではありません。数理モデルを用いてこの起源を理論的に明らかにしています。具体的には微生物の血縁認識、アリコロニーの動的最適化、包括適応度理論の一般化、集団構造と進化動態、ヒトの間接互恵性、罰や報酬の進化、順位制の進化などのテーマを扱います。その他、動物行動、種多様性、文化進化、社会ネットワーク、ヒトの生活史の進化、発がんプロセスのモデリングにも取り組んでいます。進化ゲーム理論やアダプティブダイナミクス理論自体の基礎研究も行っています。

印南 秀樹 ・ 教授 (046-858-1600, innan_hideki(at)soken.ac.jp)

<集団遺伝学, 分子進化学, ゲノム進化学>

進化のプロセスを DNA レベルで解析しています。例えば、二人のヒトの DNA 配列を比べると、平均して約 1000 塩基にひとつ違いがあります。これは、ヒトとチンパンジーとの違いのおよそ 1/10-1/15 に相当します。このような違いが、どのような進化モデルで説明できるかということを考えます。特に、ダーウィンの言うような自然選択の力が、いつ、どこで(ゲノム中の)、どのように働いたか、そして、どのように現存する多様な生物種の形成に貢献したかを、明らかにしたいと考えています。手段としては、理論、データ解析、そして、簡単な実験を用います。私自身は長い間、理論を中心にやってきたのですが、研究室としてはデータ解析や実験も取り入れていきます。対象生物は、バクテリア、酵母から、植物、動物まで広く扱っています。この分野の若い世代のレベルアップを目標に、学生教育に力をいれます。ラボのメンバーには、自分で選んだトピックを自立して研究する姿勢を身につけてもらいます。トピック(および対象生物)の制限は、DNA の進化に関するものであれば、基本的にはありません。適応進化、遺伝子重複、遺伝子水平移動、性の進化、がん細胞の進化、集団遺伝学の理論的解析などラボメンバーの研究テーマは多様です。

飯田 香穂里 ・ 准教授 (046-858-1520, iida_kaori(at)soken.ac.jp)

<科学史, 生物学史>

現在やこれからの科学のあり方を考えるには、科学を人間の活動の一つとして捉える必要があります。科学史では、科学の知と無知とが社会の中でどのようにして生産され、それがどのように社会を形作ってきたのかについて考察します。私は、科学史の中でも、主に 20 世紀の生物学史を扱っており、原爆投下、ビキニ被災、原子力の平和利用キャンペーンなど放射線関係の出来事と生物・医学との関係、農業・育種と遺伝的知識・技術と社会的背景の関係などについて研究しています。歴史学的には、脱「西洋」中心主義の最近の科学史記述の流れに関心があります。このほか、さまざまな方面の史資料の保存にも取り組んでいます。

大西 勇喜謙 ・ 講師 (046-858-1643, oonishi_yukinori(at)soken.ac.jp)

<科学哲学>

科学と社会との関係を考察するうえで、科学という営み自体についての理解は欠かせません。科学哲学とは、科学的方法論や、科学的知識の本性などについて分析する学問です。私自身は、主に科学的知識の分析に関心があります。中でも、「科学的实在論論争」という、科学理論が述べる肉眼では観察不可能な事柄の真理性に関する論争について研究を行なっています。これまでの研究では、「認識論」という哲学の分野における諸理論を、本論争に適用する試みを行ってきました。また、こうした問題と関連して、証拠による理論の確証や、科学における様々な表象(モデルや図など)の分析にも関心があります。

IV. 各コースの問い合わせ先等について

各コースのウェブサイト参照のうえ、各コースの概要、授業科目、各教員の教育研究内容をよく確認してください。

統合進化科学コース	
コース担当事務	統合進化科学研究センター 〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村) 担当係:総務課 統合進化科学研究センター事務係 電話:046-858-1595, 1577 FAX:046-858-1544 E-mail:hayamajimu@ml.soken.ac.jp
指導教員一覧	https://rcies.soken.ac.jp/html/researchers.html

人類文化研究コース	
コース担当事務	人間文化研究機構 国立民族学博物館 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号 担当係:研究協力課 研究協力係(大学院担当) 電話:06-6878-8236 FAX:06-6878-8479 E-mail:souken@minpaku.ac.jp
指導教員一覧	https://www.minpaku.ac.jp/education/university_next20/outline/supervisor

国際日本研究コース	
コース担当事務	人間文化研究機構 国際日本文化研究センター 〒610-1192 京都府京都市西京区御陵大枝山町3-2 担当係:研究協力課研究支援係(大学院担当) 電話:075-335-2052 E-mail:senkou@nichibun.ac.jp
指導教員一覧	https://www.nichibun.ac.jp/ja/education/faculty/

日本歴史研究コース	
コース担当事務	人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117 番地 担当係:研究協力課 研究教育係 (平日 9:00~12:00 及び 13:00~17:00) 電話:043-486-4361 E-mail:soken@ml.rekihaku.ac.jp
指導教員一覧	https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/education/graduate_school/soukendai/people/teacher.html

日本文学研究コース	
コース担当事務	人間文化研究機構 国文学研究資料館 〒190-0014 東京都立川市緑町 10-3 担当係:総務課 教育支援係 電話:050-5533-2915 E-mail:edu-ml1@nijl.ac.jp
指導教員一覧	https://www.nijl.ac.jp/education/university/information/supervisor.html

日本語言語科学コース	
コース担当事務	人間文化研究機構 国立国語研究所 〒190-8561 東京都立川市緑町10-2 担当係:研究推進課 大学院教育担当 電話:042-540-4374 E-mail:gs-edu@ninjal.ac.jp
指導教員一覧	https://www.ninjal.ac.jp/education/soken/course/supervisor/

情報学コース	
コース担当事務	情報・システム研究機構 国立情報学研究所 〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 担当係:総務部企画課国際・教育支援チーム 電話:03-4212-2110 E-mail:daigakuin@nii.ac.jp
指導教員一覧	https://www.nii.ac.jp/graduate/about/advisor/

統計科学コース	
コース担当事務	情報・システム研究機構 統計数理研究所 〒190-8562 東京都立川市緑町10-3 担当係:立川共通事務部 総務課 大学院係 電話:050-5533-8514 E-mail:sokendai-toukei-nyushi@t.rois.ac.jp
指導教員一覧	https://www.ism.ac.jp/senkou/subject/teacher.html

素粒子原子核コース	
コース担当事務	高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1 担当係:研究協力部 研究協力課 大学院教育係 電話:029-864-5128(直通) E-mail: kyodo2@mail.kek.jp
ウェブサイト	https://www2.kek.jp/ipns/ja/education/graduate_school/ps_course/

加速器科学コース	
コース担当事務	高エネルギー加速器研究機構 加速器研究施設/共通基盤研究施設 〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1 担当係:研究協力部 研究協力課 大学院教育係 電話:029-864-5128(直通) E-mail: kyodo2@mail.kek.jp
ウェブサイト	https://www2.kek.jp/accl/sokendai/

天文科学コース	
コース担当事務	自然科学研究機構 国立天文台 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 担当係:事務部 研究推進課 大学院係 電話:0422-34-3659 E-mail:daigakuin@nao.ac.jp
指導教員一覧	https://guas-astronomy.jp/Supervisors/index.html

核融合科学コース	
コース担当事務	自然科学研究機構 核融合科学研究所 〒509-5292 岐阜県土岐市下石町 322-6 担当係:管理部研究支援課 大学院連携係 電話:0572-58-2042 FAX:0572-58-2603 E-mail:daigakuin@nifs.ac.jp
指導教員一覧	https://soken.nifs.ac.jp/about/faculty

宇宙科学コース	
コース担当事務	宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙科学研究所 〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1 担当係:科学推進部学生担当 電話:042-759-8012 FAX:042-759-8443 E-mail: sokendai@ml.jaxa.jp
指導教員一覧	https://www.isas.jaxa.jp/sokendai/about/staff/

分子科学コース	
コース担当事務	自然科学研究機構 分子科学研究所 〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38 担当係:岡崎統合事務センター総務部国際研究協力課大学院係 電話:0564-55-7139 FAX:0564-55-7119 E-mail:r7139@orion.ac.jp
指導教員一覧	https://www.ims.ac.jp/education/group_list.html

物質構造科学コース	
コース担当事務	高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1 担当係:研究協力部 研究協力課 大学院教育係 電話:029-864-5128(直通) E-mail: kyodo2@mail.kek.jp
ウェブサイト	https://www2.kek.jp/imss/education/sokendai/

総合地球環境学コース	
コース担当事務	人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 〒603-8047 京都府京都市北区上賀茂本山457-4 担当係:総務部 総務企画課(総研大担当) 電話:075-707-2152 E-mail:gakumu@chikyu.ac.jp
指導教員一覧	https://www.chikyu.ac.jp/rihn/education/about/

極域科学コース	
コース担当事務	情報・システム研究機構 国立極地研究所 〒190-8518 東京都立川市緑町10-3 担当係:立川共通事務部 総務課 大学院係 電話:050-5533-8645 E-mail:sokendai-kyokuiki@t.rois.ac.jp
指導教員一覧	https://www.nipr.ac.jp/soken/teacher/

基礎生物学コース	
コース担当事務	自然科学研究機構 基礎生物学研究所 〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38 担当係:岡崎統合事務センター総務部国際研究協力課大学院係 電話:0564-55-7139 FAX:0564-55-7119 E-mail:r7139@orion.ac.jp
指導教員一覧	https://www.nibb.ac.jp/sections/sokendai.html

生理科学コース	
コース担当事務	自然科学研究機構 生理学研究所 〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38 担当係:岡崎統合事務センター総務部国際研究協力課大学院係 電話:0564-55-7139 FAX:0564-55-7119 E-mail:r7139@orion.ac.jp
指導教員一覧	https://www.nips.ac.jp/graduate/teachers.html

遺伝学コース	
コース担当事務	情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 〒411-8540 三島市谷田1111 担当係:管理部 総務企画課 大学院担当 電話:055-981-6720 FAX:055-981-6715 E-mail:info-soken@nig.ac.jp
指導教員一覧	https://www.nig.ac.jp/nig/ja/phd-program/faculty